

みんなで
考えよう
同和問題
人権・No. 208

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載
しています。これを手がかりに、家庭で人権・
同和問題について話し合ってみましょう。

人と人とながらるる社会に

人と人とのコミュニケーションに、言葉は大切な役割を果たしてくれます。

買い物をしていたときのことです。4歳ぐらいの男の子と2歳ぐらいの女の子がお菓子を
持って、母親と一緒にレジに並んでいました。順番が来て、男の子は店員さんからお菓子のシールを貼ってもらうと、大きな声で「ありがとう」と言って受け取りました。女の子も同じようにシールを貼ってもらい、「ありがとう」と言ってびよこんと頭を下げます。レジの人もその2人の子どもに対して優し

い笑顔で応えます。

この出来事は、周りの人たちをほっこりと温かい気持ちにさせました。「ありがとう」という何気ない感謝の言葉と行動には、この家庭の温かさまで感じました。「ありがとう」に限らず、ちょっとした一言は、ときに私たちの心をほぐし、人と人とのつながりまで築いてくれます。

少子高齢化が進み、子どもと接する機会の少ない人が増えています。ある新聞の投稿欄に「おはよう、行ってらっしゃい、お帰り」と、登下校の子どもたちが声を掛けることができるのは、

とても幸せ。そして、元気をもらおう」とありました。声を掛けられた子どもたちもきつと同じように元気をもらい、幸せな気持ちになれていることでしょう。

言葉を交わす機会の少ない一人暮らしのお年寄りや子育てに悩む核家族の親など、家族や地域での人と人とのつながりが薄れ、コミュニケーションを深めることが難しい時代を迎えています。しかし、このような時代だからこそ、周りの人と挨拶を交わしたり、困っている人に「何かお手伝いすることはありますか」と声を掛けたりするなどの、行動を起こすことが大切だと思います。

誰もが幸せな気持ちになれるよう、ちょっとした一言をお互いに掛け合ってみませんか。そうすれば、人と人とのつながる住みよい社会が少しずつ築かれていくと思います。

市老人クラブ連合会芸術交流会

12月11日、第15回伊万里市老人クラブ連合会芸術交流会が、市民センターで行われました。

この日は、午前と午後の部の2部構成で行われ、市内の老人クラブ会員が、町ごとに、揃いの衣装で踊りや詩吟、寸

劇などの演舞を披露しました。

45組が出演し、日ごろの稽古の成果が発揮された多彩な演舞の連続に、満員の会場からは、終始惜しめない拍手が送られ、和やかな雰囲気の中、観客らは心ゆくまで発表を楽しんでいました。



↑大坪町の会員による『美子の花笠音頭』が会場を盛り上げました

郷土の文化財

会に行ける焼き物⑩

染付錆地茄子文皿

二つの文様解釈

お正月の初夢にかけて、今月は『染付錆地茄子文皿』をお届けします。

染付錆地茄子文皿は、1650年代後半〜1660年代前半に作られた染付の鍋島焼で、口径15・2寸、底径8・4寸、高さ3・4寸の浅い皿です。初期の作品で、皿の内側いっぱいには茄子を描いています。

茄子の輪郭とへたは、写実的に描かれているのに対し、身は酢漿草文で埋め尽くされています。鍋島では、このように具体的なものの輪郭と抽象的な模様とを組み合わせる図案がしばしば用いられることがあります。

ところで、この錆地茄子文皿ですが、一説によると、茄子のへたが実は翼を広げた鳳凰を上下逆



さまに描いたものだともいわれていますが、皆さんにはどう見えるでしょうか。

染付錆地茄子文皿は、伊万里・鍋島ギャラリーで開催中の『徳川将軍が愛したうつわたち 鍋島焼展』で、1月13日まで公開されています。

開館時間や入館料などについては、伊万里・鍋島ギャラリー（☎02267）まで問い合わせてください。

◆問合先 生涯学習課

(☎) 233186

